

コロナとインフル 同時判定

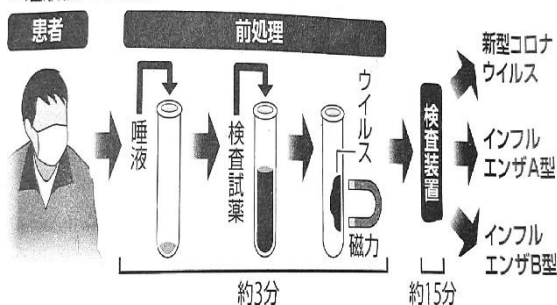
国内2社検査装置 年内にも

鹿児島市と金沢市の企業2社が9月7日、唾液で新型コロナウイルスとインフルエンザA型、B型を同時に判定できる高速PCR検査装置を共同開発すると発表しました。

検査にかかる時間は18分ほどです。年内に実用化を目指しています。共同開発するのは、鹿児島大発の医療ベンチャー「スティックスバイオチェック」(鹿児島市)とペットボトルなどの充填装置メーカー「渋谷工業」(金沢市)。

検査は、唾液0.2~0.3mlを金属製のナノ粒子(1ナノメートルは100万分の1ミリメートル)が入った検査試薬と混ぜます。粒子が付着した唾液中のウイルスを磁力で集め、装置にかけて感染の有無を調べます。検査の前処理を約3分、判定を約15分で行い、同時に8検体を検査できるようにするそうです。

唾液検査の流れ



新型コロナとインフルエンザは発熱とせきなどの症状が似ており、同時流行すると医療機関に多くの患者が来ることが想定されます。スティックスバイオチェックの隅田泰生代表は検査機器を安価に抑えて大量生産を図るとし、「地域のクリニックでも取り入れてもらえたら」と述べました。

今回の共同開発について東京医科大学病院渡航者医療センターの浜田篤郎教授は、「唾液は検体を採取しやすく、医療従事者の感染リスクも少ない。

開業医が簡単に検査できるようになれば意味がある」と話しています。

日本人は座りすぎ

あなたは1日のうち、どのくらいの時間座って過ごしますか？2011年にオーストラリアで行われた調査で、日本人は一日に座っている時間の長さが世界でワーストワンと発表されました。



座った姿勢は、一見楽なようであるが、実は肩や腰に負担がかかるため、座りすぎると肩こりや腰痛などの不調の原因に、さらに近年、座りすぎが生活習慣病をはじめ、がんや認知症など、深刻な病気にかかることも分かっています。

血液ドロドロが引き起こすリスク

座っている時間が長いと、なぜ生活習慣病のリスクが高まるのでしょうか？それは、座りっぱなしで余り動かないと、血流が滞るためです。通常、血液は心臓のポンプのような働きによって押し出され、全身の細胞に酸素や栄養素を届けています。この血液を押し戻すのがふくらはぎの筋肉。そのため脚は「第二の心臓」とも呼ばれます。しかし、ずっと座っていて脚の筋肉を動かさないと、血流が滞って老廃物がたまり、代謝機能が低下、血中の糖や脂質をうまく利用できなくなり、血液がドロドロに。糖尿病や脂質異常症などの原因になります。さらに、血栓という血液の塊ができやすくなり、心筋梗塞や脳梗塞など命に関わる病気を引き起こします。まずは、こまめに立ち上がり、椅子から離れ、体を動かす心がけましょう。